

北京消息第69号

新潟市北京事務所

中国北京市朝陽区建国門外大街 26 号
長富宮弁公楼 2014 室

<http://city.niigata.org.cn/10月10日発行>

報告 1

新潟市とハルビン市の水道技術交流

2017 年 8 月 21 日－25 日



井浦正弘 新潟市水道事業管理者を団長とする新潟市給水技術交流団が、8 月 21 日から 25 日にかけてハルビン市を訪問、一行に同行しました。



滞在中一行は、水道管敷設工事現場、水質センター、浄水場等を視察し、水道技術に関する熱のこもった意見交換が行われました。そして、水道技術発展のため、今後もさらなる協力促進を図ることを具体的に盛り込んだ「協議書」に、両代表（舒強哈爾濱供水集團有限公司董事長と井浦新潟市水道事業管理者）による調印が行われました。

1985 年から始まった水道技術交流は今年で 20 回目。水道を市民に安全に供給するという共通の目的に向け、技術を高めあう長年の取組みに、深く確かな信頼関係が構築されていると実感しました。（池田）



報告 2

インセンティブ商談会に参加

8月25日（金）、北京にて JNTO 北京事務所主催によるインセンティブ商談会が行われました。インセンティブ（旅行）とは、企業などが社員に対して実施する報奨旅行を指し、実現した場合には大人数のお客様を一度に呼び込むことができます。新潟市の観光資源の紹介に加え、大人数を収容できる朱鷺メッセなどのコンベンション施設や、ホテルの紹介を合わせて行いました。



商談会の様子

残念ながら、中国における新潟の知名度はまだ低いのが現実です。いかにして新潟を知っていただくか、いかにして興味をもっていただけるか、試行錯誤しながら PR 活動に励んでいます。（大泉）

報告 3

「2017 年日中経済協力会議－於吉林」開催 2017 年 8 月 27 日－28 日

吉林省長春市に於いて 8 月 27 日、28 日に開催された「2017 年日中経済協力会議－於吉林」に参加しました。この会議は、日中東北開発協会、日中経済協会と中国東北 3 省 1 自治区（遼寧省、吉林省、黒龍江省、内モンゴル自治区）とともに、2000 年から毎年開催されているものです。

両国の行政、企業、経済団体、研究機関等が一堂に会し、中国東北地方と日本の経済協力の在り方について協議することが目的です。基調報告では、川上克也 新潟県国際企画監による中国との交流の取り組みが紹介され、分科会③「現代サービス産業」に於いて、新潟市の観光パンフレット等により PR を行いました。（池田）



報告 4

JTB 店舗における新潟プロモーション

これは新潟市北京事務所が新紀元国際旅行社（JTB が北京に於いて設立した旅行会社）に委託した新潟プロモーション事業の一環です。

2017 年 8 月 5 日から 31 日までの約 1 カ月間、新紀元国際旅行社の店舗内部全体を新潟一色で飾り、新潟のプロモーションを行いました。

店舗正面のショーウィンドーでは日本の象徴的な着物と和傘を背景に、綺麗な芸妓さん



が見る人を出迎えました。中央には新潟を象徴するチューリップ、白根の凧、トキをあしらいました。とても斬新かつ綺麗なセッティングで、インパクトがとても強く、店の前を通る中国の方々が足を止めて写真をとったり、話題にしたり、中に入る人も多かったということです。

入口にはモニターでプロモーション動画を上映しました。動画では新潟のまつりや総踊りなど、魅力あふれるイベントが紹介されていました。その他、新潟の風景やお酒のタペストリーも飾られました。新潟についての様々な魅力を詳しく紹介することができま

した。

今回はプロモーションのテーマを「美」としました。日本において新潟は美食・美人・美景で有名であり、中国人の美に対する興味や発信性が高いことから決定したテーマです。店舗の中では新潟の美食を宣伝するため、お酒の試飲コーナーが設けられました。そしてAGD (Asian Girls Diary) 所属美人モデルが新潟の街をめ



ぐり、様々な体験をした模様取材した雑誌「AGD」と新潟市紹介パンフレットも一緒に並べていただきました。この雑誌の最後には新紀元国際旅行社が提案した新潟観光コースも掲載されています。全部で約 10 万部が発行され、北京と天津のセブンイレブンで8月に無料配布されました。新潟へのツアーの実現を目指しています。(姜)





「日中国交正常化 45 周年記念式典」が 9 月 8 日（金）、北京の人民大会堂に於いて開催され、出席して来ました。式典開催は 10 年ぶり、5 年前の 40 周年記念式典は尖閣諸島問題もあり、直前に中止された経緯があります。今回の式典開催によって、両国の更なる関係改善に期待感が増します。

唐家璇中日友好協会会長は、「困難は、両国の根気強い取り組みにより、必ず乗り越えることができる」と、河野洋平前衆議院議長は「より一層両国関係を前進させることが重要」と挨拶。周恩来の姪、周秉徳と田中角栄の娘、田中真紀子の両氏がそれぞれ特別ゲストとして当時の様子を語りました。他、李小琳中国人民对外友好協会会長やバレエダンサーの森下洋子氏など日中友好交流の関係者 130 人が集まり、45 周年をお祝いしました。（池田）



北京では 10 月 18 日に開幕する第 19 回中国共産党全国代表大会（19 大）の話題で持ちきりだ。何と言っても話題の中心は人事、党大会は 5 年に 1 度開かれるが、最高指導部に入ると、何らかの事情で失脚するか、年齢制限にかからない限り（党大会の時点で 68 歳以上は引退、67 歳以下は残留可能）、2 期 10 年は務めることができる。従って 10 年に一度はトップ交代の人事大会になるわけだ。中央委員会、同政治局、同政治局常務委員会のメンバーは一応選挙で決められるが、事実上は大会までに決まっている。今回の場合これまでの内規に従えば、中央委員会政治局常務委員会の 7 人のメンバーのうち、年齢制限により習近平（党総書記、国家主席、中央軍事委員会主席）と李克強（國務院総理）以外の 5 人は交代することになる。そして慣例に従い、次の 5 年後のポスト習近平を見据えた 2 人の比較的若い後継者がトップ 7 に入ることになる。2 人のうち 1 人は習近平の後継者、もう 1 人は李克強の後継者となる。

今回特に人事が注目を浴びているのは以下の理由だ。①昨年まで、ポスト習近平として 2 人の若手が注目されてきた。1 人は現在広東省党委員会書記を務める胡春華（中央政治局委員）、もう 1 人は腐敗を理由に最近重慶市党委員会書記を解任、党籍をはく奪され、司法当局の手に送られた孫政才（前中央政治局委員）だ。それまで下馬評は習近平の後継者は胡春華、李克強の後継者は孫政才ではないかと言われてきた。その意味で、19 大でこの 2 人はトップ 7 に入るの「当確」とされてきた。ところがここにきて孫政才は脱

落、胡春華についても「当確」から「有力」、「有力」から「可能性あり」に大きく後退している。胡春華は前共産党トップの胡錦濤や李克強の出身母体である共産主義青年団（共青团）出身であり、内モンゴル自治区党委員会書記、広東省党委員会書記を歴任、幹部候補生の道を順調に歩んできた。ところが、習近平の「共青团改革」が始まり、共青团のトップは直接最高幹部への階段を上らせないという方針が打ち出された。最近も共青团第一書記を務めていた秦宜智（51）が食品安全を管理する「国家質量監督検験検疫総局」（質検総局）副局長に任命された。これまでの慣例からすると共青团トップを務めると、地方の副省長か市長に転出し、一定の時間をおいて省長か副省長に昇格するのが一般的であった。従ってこの人事は明らかに左遷である。これで、つい最近まで「当確」がついていた胡春華のトップ7入りに赤信号が灯ったと見る人が多くなった。これは新トップ7の勢力図にも関係がある。7人のうち確実に残る李克強と、ほぼトップ7入りが確実な汪洋（党中央政治局委員、國務院副総理）は共青团出身であり、さらに胡春華が加われば共青团出身が多すぎることになり、習近平が嫌うだろうから、胡春華のトップ7入りは難しいとあるジャーナリストは解説してくれた。

②王岐山（党中央政治局常務委員会委員）の処遇についても諸説があった。習近平人気を支えている大きな理由は「反腐敗」運動である。習近平の下でこの反腐敗運動を取り仕切り、時には無情なほど厳しい摘発を行っているのが王岐山だ。今や習近平にとって無くてはならない人材である。巷の噂では、習近平は19大時点で68歳を超える王岐山に残留してもらいたいと強く望んでいるという。ところが、王岐山を残すなら、他の年齢制限を超える幹部を含め、不満が噴出しかねないので、党内の安定を必要とする習近平としてはジレンマなのである。最近、王岐山が健康上の理由も含め、引退すると表明したとの話が流れ出した。さて19大で王岐山の処遇はどうなるのか、そしてもし王岐山が引退するとしたら、今後反腐敗運動はどうなるのか、多くの人は注目している。

さて、以上は生々しい政治の話題だが、話題を変えて庶民の生活に焦点を当ててみる。

最近北京の街に突然自転車が増え出した。それもオレンジ色と黄色の自転車だ。昨年夏以降急速に増え出したシェアサイクルである。運営体もどんどん増えているが、目下オレンジ色の「摩拜單車」（M o b i k e）と黄色の「共享單車」（o f o）が圧倒的シェアを誇っている。シェアサイクルの普及は政府の方針でもあり、市民にも大いに歓迎されている。政府にとっては、乗用車の制限になり、環境問題と渋滞問題を緩和させることになる。市民にとっては、とにかく便利で、駐車場確保に悩むことも無いし、ガソリン代節約になる。敢えて車を買う必要性が低くなり、自動車ローンの圧力から解放される。利用後はどこに乗り捨てても構わない。

利用法は簡単だ。先ずパスポートなどの身分証明書を運営体に送信し、本人認定を行い、299元（約5000円）のデポジットを支払い（M o b i k eの場合）、スマホにシェアサイクルのアプリを入れれば準備完了。利用時はGPSでシェア自転車がある一番近いところはどこか調べる。自転車置き場に行ったら、アプリで自転車のQRコードを読み取り、ロックを解除すれば自由に乗れる。使い終わったら、アプリの「終了」ボタンを押せば、自動的にロックがかかり、その場で決済する。料金は驚くほど安い。30分利用で0.5元（約8円）、1時間で1元（約16円）。決済は、中国ネット通販最大手のアリババによる決済システム「アリペイ」（支付宝）や8億人が利用している中国版ライン「微信」の決済システム「ウィチャットペイ」（微信支付）を利用し、登録した銀行口座から自動引き落としにする。

あまりにも急激に増えすぎたため、問題も起きている。どこにでも乗り捨てられるので、駅周辺など自転車が大量に放置され、通行の妨げとなっている。また利用者のマナーも問題になっている。

しかしとにかく便利で安いので、利用者は爆発的に増えている。私の友人は自宅が最寄りの駅から遠いので、車出勤していて、毎日渋滞に悩んでいたが、最近はシェアサイクルを利用し、近くの自転車置き場から駅まで自転車で行き、地下鉄に乗り、駅から職場までまたこのシェアサイクルを利用している。

中国ではスマホ利用のオンライン決済システムが急速に普及している。中国と言えば「銀聯」カードが有名だが、すでにカード決済は過去のものとなりつつある。アリババグループが提供するオンライン決済サービス「支付宝」を例にとると、人々はスマホにチャージしたお金ですべての支払いを行う事ができる。このシステムはカード不要で、全ての支払いがスマホで出来る。また次のような利点がある。①手数料不要。②なんでも決済できる。電気、ガス、ネット使用料、携帯代、タクシー、全ての商店での買い物、航空チケット海外送金、友人や知人への送金、割り勘代の支払いなど。③「支付宝」にお金をチャージし、「余额宝」に預けるだけで、年率5.23%の利息が得られる。元金保証、預金は1元から可能で、いつでも解約できる。④ネットバンキングで銀行口座からリアルタイムでチャージできる。

北京ではほとんどの人が現金やカードを持っていない。現金で買い物し、支払いするのは外国人だけと言っても過言でない。中国では通販の普及で、段ボールが不足するなど、ネット、スマホ社会が凄まじい勢いで進行している。（止）

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）氏

1944年生まれ

- 明治の元勲・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授

北京スタッフ便り

スマホ時代 SNSが生み出す運動ブーム

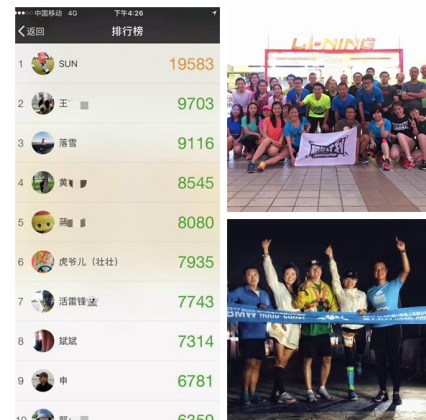
最近、周りに毎日1万歩を目指して歩く、毎週数キロを走る、そしてSNSを通じて自分の運動状況を随時に配信する友達が増えてきました。その中には、過去にはあまり運動が好きではなかった人も少なくありません。ランニングは孤独なスポーツと言われますが、中国で今最も人気、しかも社交的なスポーツになっています。この変化をもたらしたものは何でしょうか。

近年、中国の都市部では、生活水準の向上による欲求の質的变化、環境問題や仕事のストレス、高齢社会などによる疾病への不安等の影響を受けて、人々は健康が一番大切な存在だという健康意識が高まりつつあります。特に大都市で暮らす各種のストレスがたまりやすいサラリーマンたちは日頃、自身の健康維持促進や疾病予防を重視するようになってきました。生命の源は運動にあり、運動は健康づくりに最も有効な方法だと信じながら、多くの人はとりあえず運動器具に頼らず誰でも日常的にできるランニングから始めます。しかし、ランニングによる健康づくりは一人で本格的にやり続けないと三日坊主に終わるのがほとんどです。

一方、現在、世界最大のスマホ市場である中国。スマホの普及率は約70%、一部統計によれば都市部におけるスマホ保有率は90%を超えたといえます。スマホの普及に伴い、モバイル決済をはじめ、生活のあらゆるジャンルに役に立つアプリが急激に開発・リリースされ、何かを始めようとする時に、まずアプリを探してみるということが一般的になりつつあります。数え切れないほど多くのアプリの中、特に人と人とのつながりを維持・促進

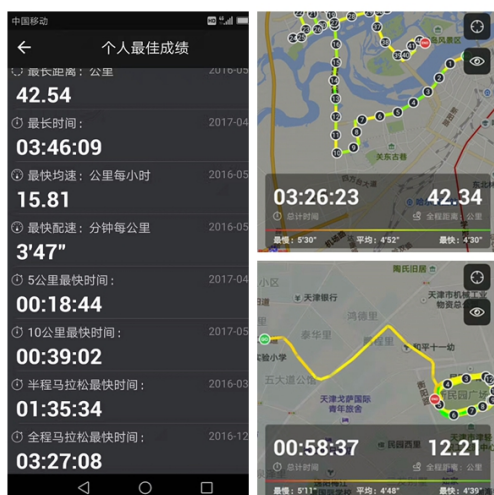
する多彩なコミュニケーション機能を提供するアプリ（SNS）は巨大なユーザー数を誇ります。

例えば、スマホのGPS機能による毎日持ち歩くだけで運動時間、歩数、距離などの基本情報を記録し、さらに自分の運動状況をネット友達とシェアできるアプリがたくさん出ています。ネット友達同士は互いの成績を見ながら競い合い、それぞれのモチベーションをアップさせます。また、このような交流を通じて同じ趣味を持つ人々は自然に集まり、オンラインで同好会のようなグループを作ってオフラインで活動するようになってきました。SNSによって、随時に近くにいるランナーをランニングに誘ったり、休日に大勢の人でランニングを楽しんだりして、ランニングは孤独なスポーツでなくなり、まるで社交的なスポーツになっています。



オンラインで競い合い、オフラインで走りを楽しむランニング同好会

ランニングは有酸素運動の一種として、始めてからしばらくはきつくて苦しい思いをしますが、ある段階を超えると心地よい感じがします。長く継続的に実施すると、この運動による爽快感が癖になり、毎日運動しないと気が済まないという気持ちになると週に一回ハーフマラソンあるいはフルマラソンを走るある友人は言いました。とは言え、人それぞれの年齢、体力、普段運動の習慣が違うため、自分の体力を把握しながら軽い運動から始めて健康づくりをしましょう。（鞠）



参加者が年々増える各地のマラソン

ある友人が SNS で配信したランニング成績

■■お知らせ■■

「ビジネス支援サービス」をご活用ください。

新潟市の中小企業、団体等が北京市内で経済活動を行うに当たり、様々な支援を行っています。お気軽にお問い合わせください。詳しくはこちらから

http://city.niigata.org.cn/business_support_service.htm